

## 臨地実習 ( 公衆衛生看護学 / 高度実践コース )

[実習] 1年 後期 必修 90時間 2単位

《担当者名》 佐藤美由紀 明野聖子 [ naga-s@hoku-i-ryo-u.ac.jp ] 表山知里 [ omote\_22@hoku-i-ryo-u.ac.jp ]

## 【概要】

養育期の家族もしくは高齢者を対象に継続した家庭訪問を行う。家庭訪問を実施する上で必要な対人関係能力を養うとともに、対象者と家族の健康状態、地域での暮らし、社会資源を理解し健康な生活を支援する意義を学ぶ。

地域包括支援センターの役割および機能を理解する。住民主体で取り組む介護予防や地域包括ケアシステムの構築に向けた保健師の実践から、地域のケアシステムの構築のあり方を学ぶ。

産業保健・学校保健における対象の特性に応じた保健活動の実際から、それぞれの健康課題を理解し、保健師および養護教諭の役割を学ぶ。

## 【学修目標】

- 1) 対象者や家族の発達段階やセルフケア力をふまえて、系統的・継続的にアセスメントし、家庭訪問により、明確化した健康課題への支援を展開できる。
- 2) 地域包括ケアの構築に向けた活動の実際から、関係部署及び地域の関係機関（関係者含む）との連携・協働による活動展開方法や支援のあり方を考察できる。
- 3) 産業保健および学校保健の場における保健師や養護教諭の活動の実際と役割を説明できる。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	【実習課題1】 養育期の家族もしくは虚弱な高齢者への継続した家庭訪問の実施	<p>[ 実習内容 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 事前に得た家庭訪問する事例に関する情報から、情報を整理し、アセスメント、支援の目標・計画を立てる。</li> <li>2) 家庭訪問を通して、対象者や家族との信頼関係の構築を図る。</li> <li>3) 対象者と家族の健康状態、地域での暮らし、社会資源を理解し、対象者が健康的な生活を送れるよう支援を展開する。</li> </ol> <p>[ 実習場所 ] 北海道内の市町村 [ 実習期間 ] 前期の期間中に3～4回の家庭訪問を行う。</p>	佐藤、明野、表山
2	【実習課題2】 地域包括支援センターでの地域包括ケアシステムの構築に向けた支援のあり方の理解	<p>[ 実習内容 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域包括支援センターの活動の実際から機能及び役割を学ぶ。</li> <li>2) 住民主体で行う介護予防活動の見学を通して、住民の主体的な活動や保健師が行う支援の実際を学ぶ。</li> <li>3) 地域のキーパーソンにインタビューを行い、地域包括ケアを推進するために連携・協働する人々のもつ力を見出す。</li> <li>4) 地域包括ケアを推進するための保健師及び多職種・関係機関との連携調整会議の見学から、連携・協働による活動の展開を学ぶ。</li> </ol> <p>[ 実習場所 ] 江別管内の地域包括支援センター [ 実習期間 ] 5日間程度</p>	佐藤、明野、表山
3	【実習課題3】 産業保健・学校保健の場における保健師や養護教諭の活動の実際と役割の理解	<p>[ 実習内容 ]</p> <p>産業保健実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 産業保健の活動体制と活動の概要、法的基盤を理解する。</li> <li>2) 産業保健におけるおもな健康課題への理解を深める。</li> <li>3) 産業保健における保健師の活動の実際と役割を学ぶ。</li> <li>4) 多職種・関係機関との連携の実際を学ぶ。</li> </ol> <p>学校保健実習</p>	佐藤、明野、表山

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		1) 学校および保健室の見学により、機能と運営の実際を学ぶ。 2) 児童・生徒の様子や会話から、発育・発達段階を理解し、発達課題の理解を深める。 3) 児童・生徒への養護教諭の対応から、発達段階に応じた保健指導と健康支援のあり方を理解する。 4) 学校内外の多職種・関係機関との連携の実際を学ぶ。  [ 実習場所 ] 産業保健実習 札幌市内の病院 学校保健実習 当別町内の小学校または中学校 小 中一貫校を含む [ 実習期間 ] 各1日、計2日間	

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

実習目標の達成度（60％）、記録物日々の学び、家庭訪問、まとめのレポート等の記録物（40％）により総合的に評価する。

【教科書】

中谷芳美：標準保健師講座 対象別公衆衛生看護活動，医学書院

中村裕美子：標準保健師講座 公衆衛生看護技術，医学書院

岡本玲子他編著：公衆衛生看護学テキスト 第3巻 公衆衛生看護活動，医歯薬出版株式会社

荒木田美香子編著：公衆衛生看護学テキスト 第4巻 公衆衛生看護活動II 学校保健・産業保健、医歯薬出版株式会社

【参考書】

麻原きよみ編著：公衆衛生看護学テキスト 第1巻 公衆衛生看護学原論 第2版、医歯薬出版株式会社

佐伯和子他編著：公衆衛生看護学テキスト 第2巻 公衆衛生看護の方法と技術、医歯薬出版株式会社

【備考】

- 1) 実習記録の配信には、Google Classroomを活用する。
- 2) 実習目標の達成度等の確認には、Google Classroomを活用する。
- 3) 指示した記録物の提出には、Google Classroomを活用する。

【学修の準備】

1. 実習前の学修の準備

- 1) 実習では、パソコンでの記録作成と自宅でのプリントアウトを必須とする。
- 2) パソコン、プリンターの整備をしておく。

2. 実習開始後の学修の準備

- 1) 実習要項の関連ページを熟読して臨む。
- 2) 記録様式1には、実習内容、実習目標および学びの視点を記入する。
- 3) 各実習プログラムの参加時には、オリエンテーションの内容を確認して臨む。
- 4) 家庭訪問では、対象者の健康状態に関する病態生理およびアセスメント、地域の社会資源等を予習する。
- 5) カンファレンスでは、学びや疑問などを整理し、実習目標と関連づけて言語化できるよう臨む。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。